

【会長】

それでは、議題に入ります。

まず、第1層生活支援コーディネーターからということで、(1)令和3年度活動報告および令和4年度活動方針について、社会福祉協議会からご説明をお願いいたします。

【北区社会福祉協議会】

北区社会福祉協議会でございます。よろしくお願いいたします。

では、議題の(1)の第1層生活支援コーディネーターからということで、資料3をご覧くださいまして、ご報告をさせていただきたいと思っております。資料3でございます。

令和3年度の活動報告と今年度、4年度の方針ということでございます。昨年度から引き続きの委員の方には、令和3年度のご報告について、既にいろいろとご説明しているところですので、簡単には思いますけれども、まず、資料3の1、令和3年度のご報告です。

(1)として、第2層の生活支援コーディネーターに対するヒアリングを実施いたしました。この中から幾つか課題が出てきてまして、この表に落とし込んであるんですけども、一つ目、2層のコーディネーター、今、高齢者あんしんセンターに設置をされて16人の2層のコーディネーターがいらっしゃるんですけども、やはり高齢者あんしんセンターの業務と生活支援コーディネーターの業務がなかなか切り分けが難しいところが多いようで、職場内の活動環境の整備が必要なコーディネーターもいるということが分かってきております。

二つ目として、この2層のコーディネーター業務に関する目標立てと振り返りなのですが、この活動として、具体的な目標、計画をあまり立てることが難しい状況になっていらっしゃる方が多いということでしたので、これについての取組が必要であるということと、あと、三つ目の地域の新たな担い手の発掘の部分ですが、どうやら、あまりまだ関係形成ができていないところで、積極的に訪問をして関係形成するのが苦手なコーディネーターも中にはいらっしゃるようでしたので、この辺をどういうふうにしたらいのかということなどが、課題としてヒアリングで分かってきたということになります。

これを受けまして、(2)でございますけれども、生活支援コーディネーター自己評価チェック票の開発ということで、どのような目標を立てて、どういう計画を立てながらこの業務を進めていくかということについて、自己評価ができるようなシートをプロ

ジェクトチームをつくって皆さんと一緒に作成をいたしました。これを令和3年度は、これが一つ大きな成果というふうになっております。

三つ目の新たな担い手発掘の支援ですけれども、今、16の地域に分かれているんですけど、やっぱり単独で動くのがなかなか難しい方もいらっしゃるので、なるべく隣接した地域のコーディネーター同士と一緒に動いたりですとか、連携ができるような働きかけなどをするという事で、令和3年度は活動を行わせていただきました。

続きまして、裏面に移っていただいて、資料3の裏面ですね。ここの大きな2番でございます。

令和4年度の第1層生活支援コーディネーターの活動方針についてということですが、令和3年度の今ご報告したことを受けまして、どんなような活動をしていくかということでございますが、(1)第2層生活支援コーディネーターに対するヒアリングを継続して実施をするということで、今年度も既に16地区のコーディネーター全員に対するヒアリングが終了をしたところでございます。現在、そのヒアリングのまとめをしておりますので、また新たな課題等が出てきましたら、またご報告ができるかなと思っております。

(2)でございますが、第2層生活支援コーディネーターの活動目標の共有と自己評価の推進ということで、先ほど申し上げました自己評価チェック票というのを作りましたので、これを各コーディネーターに作成をしてもらって、昨年どんな課題があったか、今年どういう活動目標で、具体的にどんな活動をしていくかというようなことを一覧表に落としていただくという作業を今、していただいております。

16地区の皆さんに7月15日、本日取りまとめの締切りとしておりますので、これから提出をされたものを皆さんと見ながら、それを使いながら、どのような計画が立っているのか、どんな課題があるのか、そしてまたその中で1層として取り組むような共通課題がどういうふうに出てくるのかという分析をこれからしたいと思っておりますので、こちらを活動としていく予定になっております。

(3)、そういうことを踏まえて、ヒアリングの中からもどういった研修が必要かなんていうこともヒアリングをしておりますので、それに基づいて研修をどういうふうなことをやっていったらいいのかというのをこれから企画していくという形になります。

(4)協議の場の立上げ・運営支援ということなんですけれども、この生活支援体制を進めていくには、コーディネーター一人の力ではなくて、地域の方と一緒にやる協議

体と言われる、一緒に考えて一緒に行動する仲間づくりというのがとても大事なんですが、ここにまだ着手ができていなかったり、その運営にいろいろな戸惑いや課題を抱えていらっしゃる方も多いので、ここのところを1層としてサポートをしながら進めていこうかなというふうに考えております。

今日、後ほどの議題の2の(2)のおたがいさまネットワーク連絡会のところでもそういう話題が出てきますので、そちらのほうでもまた詳しくお話をさせていただければいいかなと思っております。

どちらにしろ、この協議体と言われる地域の中で生活支援コーディネーターと一緒にあって、主に高齢者の活躍の場ですとか、あるいは介護予防につながるような活動とか参加につながるようなことを一緒に考えていただくチームというのがとても大事になると思っておりますので、ここをどういうふうに構築していくか。しかも、それは高齢者あんしんセンターのエリアで一つでいいかというよりは、もうちょっと小さなエリアで、歩いて行けるような地域の中で、我が事として一緒に考えられるような協議の場が必要じゃないかという、東京都レベルでもそういう議論がされておりますので、こういうところに向けて、1層と2層のコーディネーターが連携をしながら事業を進めていきたいと考えております。

(1)のご報告については以上でございます。

【会長】

はい。ありがとうございます。資料3についてご説明いただきました。

ただいまのご説明に関しまして、ご質問、ご意見、感想などがございましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。

ちょっとすみません。私のほうから確認でございます。ちょっと聞き逃したのかもしれませんが、1枚、1ページ目の表で課題を三つ挙げられたということで、この2層の回答のところ、知らない人にアプローチするのが苦手というのは、これは2層のコーディネーターさんがそういう方がいらっしゃるかと…

【北区社会福祉協議会】

そうなんです。私、人見知りなんですという方が結構いらして。

【会長】

ちょっともともとこういった方がなさるのは、かえって逆にご本人にとってもストレスな役職かもしれませんし、あるいは逆にトレーニングすれば、そういった方も克服で

きるのか、その辺りは大先輩としましては北区社会福祉協議会のご意見はどのような方向性で今後明るい方向へ導ける可能性があるのか、ちょっと教えていただきたいと思いますが。

【北区社会福祉協議会】

一緒にやろうという感じで。一応、一緒に動いているうちの職員が1層のコーディネーターとして動いていますので、いろんな、キーパーソン探してみたいなものを一緒に、打合せをしたりですとか、あるいはほかではこうしているよという話をしたりですとか、あるいはほかの社会福祉協議会ですとかぶらっとほ一むですとか、いろんなところでやっているいろんな人が集まるような場所に積極的に声かけをしてきていただきながら、つながっていただくようなサポートをしたりなんていうことを考えたり。あと、この中に書いているのは、1人じゃなくて2人、3人で、隣接のエリアのコーディネーターと一緒に、この包括のエリアが必ずしも住民の生活圏とは限らないこともあるので、生活圏を一緒にしているような隣接するコーディネーター同士と一緒に関係形成だとかいろんなキーパーソン探したとかしたらいいんじゃないか、なんていうことを助言しながら進めていくというふうに考えております。

【会長】

なかなか限られた人材で、2層のコーディネーターの方を見つけるというのも難しいのかもしれませんが、初めからやっぱり2層のコーディネーターというのは、これだけ、ともかく対人業務でコーディネートするものだという事は認識して、もともとコーディネーターになっていただいたほうが、周りのコーディネーターもまたさらに伴走しないといけないとなると、かなり皆さんの苦勞も多いかなと思いますので、ぜひその辺は、いい人選とまた研修のシステムをつくっていくのが大事かなと思いましたので、ちょっと素朴な質問をさせていただきました。

以上でございます。

【北区社会福祉協議会】

ありがとうございます。

【会長】

よろしゅうございますか、ほかいかがでしょうか。

それでは、続きまして、(2)の令和4年度 3圏域の地域ケア連絡会の開催について。こちらもち北区社会福祉協議会からご説明をお願いいたします。

【北区社会福祉協議会】

では、引き続きご報告させていただきます。資料4をご覧ください。

3圏域、王子、赤羽、滝野川の三つの圏域ごとに生活支援コーディネーターの方々が集まって、合同の地域包括ケア連絡会を例年開催しているところで、今年度につきましても、既に話し合いが進んでおります。

今年度については、もう既に開催日程が決まっております、お示しのとおり、王子については、10月19日に北とぴあで開催をする予定。赤羽については、12月10日に赤羽会館。滝野川については、11月9日に北とぴあという会場が決まっております。

それぞれ、一応テーマの（仮）の案は既に出ているんですが、具体的な中身等はこれから検討という形です。一応何かこれだけ見ると、もう企画が出来上がっているように見えるのですが、具体的な進め方ですとか、どういう方に集まっていただいて、とかいうことについては、今、まさに生活支援コーディネーターの方々が集まって、毎月のようにその準備のための検討を進めていらっしゃるところです。こちらは、日程が決まっておりますので、ほかの日程と被らないといいなと思っているんですが、ご予約いただけるとありがたいなと思っております。

ご報告については以上でございます。

【会長】

ありがとうございます。3圏域の地域ケア連絡会の開催についてご説明いただきました。委員の皆様からご質問、ご意見、いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、次は、委員からのご報告ということで、（1）十条銀座商店街の移動販売についてということで、委員のほうからご説明をお願いいたします。

【委員】

皆様、こんにちは。私は、北区商店街連合会の代表で、日頃は女性部長という立場でお仕事させていただいています。よろしく願いいたします。

北区、実は今日お話しさせていただきます内容は、実は令和2年の2月18日に行われた、ちょっと少し月日がたっている内容をお話しさせていただきたいと思います。

趣旨は、十条銀座商店街は、北区まちづくり部住宅課の依頼を受けまして、産業振興課、高齢福祉課と連携いたしまして出張商店街を行ってほしいという依頼がございまし

たので、それを行わせていただきました。

出張商店街の目的としましては、区内で近隣に店舗が全くない、そして買い物に不便をきたしている地域ということで、十条銀座の店舗が出張して、商品を販売することで、地元の方への便宜を提供するとともに、商店街としても、新たな販路を見つけていくことということで、この移動販売をさせていただきました。

このときに、実は場所がシルバーピア赤羽北にございます、そちらのところでさせていただきました。十条商店街の4店舗のお店の方々に協力していただきまして、お手元の資料の出張商店街というチラシを配らせていただきながら、参加店は、アサイ青果店というお野菜、果物、パン、お菓子を販売しているお店です。そして、二つ目が、ササガワさんというメガネ屋さんですね。こちらでは、眼鏡の点検、洗浄、簡単な視力測定など、あとは電池交換をさせていただいたりしました。そして、私のお店は、十条商店街の中のジュエリーこまつというジュエリー販売というお店を営業させていただいているお店です。そこではお手持ちの地金の製品などの買取りをさせていただきました。そして、キンコー堂さんという、ここは婦人服、紳士服、肌着、靴下などを販売しているお店。そういった4店舗が今回、初めて販売をさせていただきました。

売上総額は、注文予定を含めて14万円という金額を頂いております。

お買物の参加状況として、近隣のポストインをして、皆様方にご案内をさせていただきました。そして、北赤羽の住民が来店されました。そして100名ぐらいの人たちがこの場に集まってこられました。

そして、買物客の感想ですね。地元で十条商店街と同じ価格で買物ができるのはありがたい。この地域の住民も十条銀座へは、バスで時々買物に行くが、商品を持って帰るのに苦労している。こちらまで出張してきていただけるのは、大変にありがたいと。その中でも、アサイ青果さんでは、お米を持って今回行かれて、地域の住民から非常によい好評を受けました。予想以上の売上げだったと聞いております。

その後の状況としては、出張販売店は、実は2月18日に開催して、そして3月17日、2回目の販売を予定しておりましたが、ちょうどコロナウイルスの影響で、2月18日、この1回だけ販売ができました。でも、2回目以降は行うことができない、このような状況でございます。

一度しかない経験でございますけれど、皆さんに喜ばれた報告をさせていただきました。ありがとうございます。

【会長】

ありがとうございます。非常に興味深いといえますか、大事なご報告だと思います。皆様のほうから、委員の皆様からご意見、ご質問等ございますでしょうか。

委員、お願いいたします。

【委員】

貴重な発表ありがとうございます。

この赤北三丁目エリア、本当、買物がとても不便ということで、今でもこのような活動ができたかなと思っていました。赤北3さんミーティングということも含めて、今、ちょうど5月ぐらいですかね、赤北マルシェということで同じようなことを継続してやっているんですけども、今後、もし出店をまた依頼して、継続してやっていただくということは、お願いすれば可能なのでしょうかということで、ちょっとご質問なんですけども。

【会長】

委員、いかがでしょうか。

【委員】

そうでございますね。これはちょっと状況が少し変わりました、今までアサイ青果さんの担当していたお野菜屋さんが、ちょっと事情がありまして、代表者の今までお手伝いしてくださった方がちょっと難しくなったので、この後は、また新しく相談しながら、いかなければいけないかなと思っております。

【会長】

どうぞ、委員、追加でもし。

【委員】

またご相談させていただくことは可能ということで。

【委員】

それは帰りまして、また会議にかけて決めたいと思いますので。

【委員】

分かりました。またちょっとご相談させていただくことがあるかもしれませんが、またよろしく申し上げます。ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございます。

この四つの店舗が出店されたということですが、今後、場合によればもう少し違う店舗さんも関心を示されたりというような可能性もあるものなのではないでしょうか。逆にどういうお店屋さんなら出店しやすいとか出店しにくいとかございますでしょうか。

【委員】

そうですね。私たちも初めての経験なものですから、今後は、やはり販売店によっては、特にアサイ青果さんは非常によく売上げということもございましたので。それで、やっぱり食料品は皆さんとても喜ばれますよね、一番人気がありますよね。やっぱり先ほどお話しさせていただいたように、お米をやっぱり持って帰るのはすごく大変ですよ。やっぱり5キロとか10キロ、1キロ、2キロでもやっぱり重たいですから、大変なんですけど、食料品が私はいいかなというふうに考えていますけど、やっぱりお店にそれを協力依頼していただける人でないと、これ、1日出張販売というのは、とてもやはり大変な、諸事情もいろいろございますので、本当に参加してくれる皆さんが協力していただけないとできないので、それは会議の中でまた決めていかなきゃいけないかなというふうに今感じております。

【会長】

はい。ありがとうございます。本当にこの買物支援とかいう、そういったもの、非常に大事な問題で、多分地元の商店街さんがご協力いただくのが一番最良だと思うんですけど、それがどうしても無理な場合は、今、全国的にとくし丸さんとかそういった訪問サービスのネットワークなんかも広がっているかと思うんですけども。やっぱり、できれば本当は地元のお店屋さんをつなげるのが一番だと思いますので、ぜひいろんな形で、両方がウィンウィンになるような形で、探索して、やり方を模索していただければと思いますので、ぜひ期待しております。

ほか、よろしいでしょうか。

じゃあ、まず北区社会福祉協議会、お願いします。

【北区社会福祉協議会】

すみません。実は今回のこちらの移動販売をしていただいたところと前後して、先ほど委員からもお話あったんですけども、この地域のまさに協議体になるような集まりの中で、この地域どうしていこうかというのが、ちょうどこのエリアは、赤羽北高齢者あんしんセンターと桐ヶ丘高齢者あんしんセンターのエリアがちょうどつながっているようなエリアなので、そこの方たち等と一緒にやりながら、今は少しまた違う動きにな

っている部分もあったりする、ちょっとそこら辺を補足で少しご報告を、うちの……

【会長】

お願いいたします。

【北区社会福祉協議会】

1層のコーディネーターの職員が詳しいので、少しその動きのところについてご報告させていただきたいと思います。

【北区社会福祉協議会】

令和4年度より第1層生活支援コーディネーターになりました。よろしくお願ひいたします。

先ほど、委員のほうからお話しいただいたように、ここの赤羽北三丁目エリアというのが、ちょっと買物に不便を抱えていらっしゃる方がたくさんいるというのを高齢者あんしんセンターの方々もつかんでいて、その中で、ちょっと私たち自身で何かできないかということをお悩んでおりました。地域の方々とちょっと何度も話し合いを重ねる中で、じゃあ私たちのできることをやってみようということで、赤北マルシェという名前にはなっているんですけど、実際商店街さんがやっていたような立派なちよつとお店みたいな感じではなくて、今現在は、障害の団体さんたちでクッキーとかパンとか作っていらっしゃるところがたくさんいらっしゃるの、そういうところにちよつと来ていただいて、お昼ぐらいにちよつと売っていただいたりとか、あとは地域で手作り品をやっぱり趣味で作っていただいている方がたくさんいらっしゃるの、ぜひそれは私たちのほうにも売ってくださいということでお願いをして、アクリルたわしとか、手作り品のマスクとか、そういうのを今、地域の方々に売っていただいて、交流をメインとしたマルシェという形になっています。

そして、マルシェだけだとやっぱりなかなかちよつと集まらなくて、今は高齢者あんしんセンターがなかなかこのコロナの状況で外に出ないというのをすごく心配しております、屋外での体操、毎週木曜日、そのシルバーピアの前でやっぱりいらっしゃるんですね。それで、そのシルバーピアの前の体操が終わったら、はい、マルシェやりますよというふうに、その体操の流れでぞろぞろと皆さん移動されて、交流メインで、ちよつとアクリルたわし、じゃあ一つ頂戴みたいな買物を楽しまれて、今、細々とこのコロナ禍でもちよつとやっぱりしているという状況です。

私たち、やっぱりいろんな方々のご協力を受けて、このような形をちよつと続けてい

きたいなというふうに思っていますので、今後、商店街の方々にもいろいろご知恵も拝借できればと思っていますし、あとは、お楽しみということで考えると、赤羽ベーゴマの委員さんのように、地域でご活動の方々にもご協力いただきながら、今後は地域の交流の場を育てていきたいと思っています。

以上となります。

【会長】

ありがとうございます。地域づくりをしながらということで、いい取組かと思えますので、期待したいと思えます。

あと、委員、何か、はい。

【委員】

介護サービス事業者から来ました。ご報告ありがとうございました。

チラシの表裏を見させていただきながら、もしかしたらと思って、すみません、こういう場ですけどフェイスブックを調べてみたら出てきまして、写真で見ると余計にご報告の意味、中身が分かりました。ありがとうございました。

この開催時期というのは、ちょうどコロナが何ていいんでしょうか、どうなるのかなという心配の中での準備の中で、模索、ご苦勞もあったと思うんですが、あれでしょうか、通常の移動販売、店舗を持たないお店として車で販売したり、または買いに行けない方へ届けるという発想というのは、このようにまとまってお店をその方の生活圏の中で開かれるというのは幾つも意味があると思っているので、とてもうれしく聞かせていただきました。

もしこれが続いていけばという意味では、このチラシにも2月、3月、第3火曜日と出ていますけれど、今後、この再開の見込み、または商店街連合会さんとしてこういったことを区内で何か芽を広げていきたいなというところを何か今日、お話を伺えたらと加えて思いました。どうもありがとうございました。

【会長】

一言、委員、お願いします。

【委員】

先ほどもお話しさせていただいたように、これは、やはり区民のお住まいの場所のシルバーピアの皆さんに、本当に喜んでいただけるには、やはりお店を1日休まなきゃいけない、それぞれのお店がやっぱり今回、店主の皆さんが頑張ってお手伝いしていただ

いていますので、やはりそういった意味で1日休まなきゃいけないというのと、やはり正直申し上げると、どうしても売上高もお店によって全く違ってきたりいろいろします。

ですので、そういったところもこれからここに本当にそういったことも、売上げも本当になくてもボランティアの感じで商店主がお手伝いしていただける方が増えれば、これはすごい皆さんのお喜びの場になるんじゃないかなと思いますけれど。とにかく1軒ではできる問題じゃないので、まだかなり検討しなきゃいけないところがたくさん残っているというのが現実でございます。検討していかないといけない。

【会長】

はい。ありがとうございます。委員、お願いします。

【委員】

今、ご案内にありましたシルバーピアですけれども、これ、私どものまちづくり部で所管しております施設で、趣旨のところにもありますように、私どものほうから商店街のほうにお願いをさせていただいたという経過がございます。

これまで公営住宅については、都営住宅については、こういった移動販売の資金を東京都が持っていて、現在区内では、桐ヶ丘と堀船の都営住宅の地域内で、こういった移動販売、今、とくし丸のというお話もありましたけども、そういった形での移動販売を行っているんですけれども、区営住宅としては、今回初めての試みだったということで、ここにあるように、令和2年の2月とそれともう一つ3月の2回、テスト販売というような位置づけで、十条銀座の商店街さんと区のほうで覚書を結ばせていただいて実施をしたということです。

コロナの関係もあって、その覚書の事業期間もう今、切れている状態ですけれども、できましたら、かなり好評だったということもありまして、区のほうでは何かしら引き続き継続してやれないかというようなことは、今、考えてございます。これはまだ商店街さんのほうともいろいろと協議をしていかなきゃいけないと思っていますし、今、おっしゃられたように、いろんな課題もあるかというふうに思っていますけれども、ここに限らず区営住宅の中で、やはり買物が不便な地域というのが幾つか存在していますので、ほかの区営住宅に広げていくことも含めて、こういった形の資金を制度化していかないかというのは、現在、区のほうでも考えているというところでございます。

以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。区営の住宅全体に共通するような、何か仕組みができればというようなことかなと思います。

いずれにしても、本当にこれ、いろんな市町でこういった好事例といいますか、先駆的にやっている場合もあるかと思しますので、ぜひ勉強をして、また研究してということをごいう会でも考えていきたいと思しますので、ぜひ皆様、アイデアがあれば出していただければ思います。ありがとうございます。

それでは、続きまして、資料6のおたがいさまネットワークにつきましてご説明をお願いできれば思います。

【委員】

高齢者あんしんセンターから来ました。どうぞよろしくお願いたします。

本日、ちょっとこちらに計画書ということで出させていただきましたが、これ、本当に私のメモ書きのようなものになります。

これを出すに当たっての経緯なんです、今、高齢者あんしんセンターでは、生活支援コーディネーターという職員が配置をされて、先ほど北区社会福祉協議会から報告があったとおり、それぞれ課題を抱えながら活動をしているというところ、地域性やコーディネーターの活動によって、いろんな協議の場をつくるための活動をしているという段階です。

ほかのあんしんセンターでもいろいろな活動をされている中、新たな今、マルシェのような新たな場ができていたり、いろんな地域の方から声を聞く場というのが多分できているのかなとは思っているんですが、そんな中、今日は私どもが担当している豊島の地域の中で、課題かなと思いつつも活動している中で感じていることをちょっと報告させていただきながら、北区社会福祉協議会にご相談させていただきながら活動しているので、そんなことを報告させていただいて、ほかのあんしんセンターの方、職員とも共有できて役に立てたらいいかなと思つての報告になります。

現在、豊島の高齢者あんしんセンターの中でもいろいろな、同じ豊島のエリア、豊島二丁目から八丁目といつても、そのエリアの中でも地域性というのがそれぞれある。なので、もう少しいろんな単位、小さい範囲なのかというところをいつも迷いつながら活動をしているかなというところ、

実際に話合いの協議の場と言えるような活動が少しはできているかなと思つていますが、まだまだ、かといつて広い、ある程度私たちのエリア、65歳以上の人口が

8, 400人と結構いらっしゃるので、その方たちのお声を聞く場としては、幾つかそういう場がないといけないんじゃないかなと思っております。

そんな中で、北区の既存の緩やかな見守りの仕組み、おたがいさまネットワークという仕組みがありますので、その関係機関の方に集まっていただいて、改めてそういう場についてスタートを切ってみれないかなという相談を1層のコーディネーターにさせていただきました。

その中でどういうふうにしようかなというのをこの計画書というところで、本当にメモなんですけれども、まとめてさせていただきまして、相談をさせていただいたところになります。

【北区社会福祉協議会】

というご相談をいただきまして、今日、この1層の会議で、皆様方にぜひご助言いただきたいなということで、ご報告なんです。ぜひ1層らしい、何ていうか、これ多分いろんな地区で同じ課題を抱えているなということでしたので、皆さんにお聞きいただいて、ご助言いただいたらいいなと思っているところなんです。

実は、この生活支援体制整備事業の中で、協議体を設置するというようなことが一応仕組みの中でも示されているんですけども、やはり先ほどからお話が出ているんですが、例えば豊島の高齢者あんしんセンターですと、住所で言うと豊島二丁目から豊島八丁目という大きなエリアなんです。それで、豊島二丁目は王子の駅に近くて、本当に堀船のところまですぐ近くのところなんです。八丁目になると、地下鉄の王子神谷のほうになったり、もうかなりエリアが違うんですね。

なので、高齢者あんしんセンターの圏域で一つしか協議体がないと、割と漠然とした話になっていて、自分の地区の課題というふうになりにくいんじゃないかと。豊島の場合、豊島五丁目という大きな団地もあったりして、二丁目と五丁目も違うし、七丁目と五丁目も違うしという中で言うと、将来的には、丁目ごとに一つずつ必要かどうかは別にして、幾つかもうちょっと細かい単位で協議の場がないと、その地区のニーズに合わせた活動というのが作りにくいんじゃないかという話をしている中で、今回は、このおたがいさまネットワーク連絡会が主に民生委員の方ですとか、あと商店の方が入ってくださって、ネットワーク連絡会を開いてくださっているんで、そこの中からはいろいろなキーパーソンになりそうな方を協議をしながら、ぜひ探していきたいなという話をしているんですが。

というのも、これまでの地域包括支援センターですとかの何か会議体をつくるときのやり方というのが、大体いろんな組織の長の方に来ていただいて、自治会なら自治会の代表者、民生委員なら民生委員のその地区の代表者に来ていただいてというようなことが多くて、お話を聞いていただくので、ちゃんと話が分かったよという感じで了承していただいたりだとかご助言いただいたりはするんですが、この協議体の場合は、そこから先に、今地域でこんなことが起きているよとか、そのために我々こんなことをできるんじゃないかとか、こんなことをやるために、じゃあもっとうこういう仲間を集めようかという、その動きのほうにつながっていくイメージをしていくようになると、各いろいろな団体、例えば商店街なら商店街の代表の方だけとか、民生委員さんなら民生委員さんの会の会長さんだけに来ていただいて、幾つもの会議に出ていただくというのは、やっぱりちょっと現実的ではないです。

やっぱりいろんな動きにつながっていくということを考えると、我々の言い方で言うと、何か面白そうな人というところとちょっと何か、何て言ったらいいかわからないですが。今、例えば桐ヶ丘などでは、協議体をつくっている中で、商店街から出てきていただいている方の中で、会長さんではなくて、役員の方の中でボーイスカウトの活動の役員を何かやっていただいた経験の方がいらっしゃって、そういう方たちなんかだと、子どもたちを集めてこんな活動しようよなんていうのをいろいろとアイデアをくださったりだとかというような、今、桐ヶ丘もそうですし、ほかの地域も割と高齢者の方たちが自分たちの高齢者の課題だけではなくて、地域の子どものことをすごく気になるよ、私たちが担い手になって、子どもたちのことを何かやろうじゃないかというようなつながりとか動きが結構いろんなところで出てきていて、高齢者の生活を支援するというよりは、元気になる活動をみんなで一緒にやっていこうよという場ができたりだとか、その中で担い手になっていたり、活動の場ができていたりというような感じの動きが出てきているんですが。

こういったものを例えば豊島でつくっていくときに、振り返って、今までのやり方ですと、例えば商店街の連合会の会長さんですとか、商店街の会長さんに来てくださいませんかとか、自治会とか民生委員の方たちの会長さんに来てくださいませんかとするんですが、そこを一步何ていうか、次のやり方というか、その中でこういった小さい地域でやるときに、どなたかいい方いませんかというようなご相談が、今までのやり方だとちょっとしにくかったり、ご相談をどういうふうにしたらいいかなという戸惑いがある

ったりするので、今日、町会・自治会代表委員はお休みですけれども、自治会の場合だったらどのようなお願いの仕方がいいのかとか、あるいは民生委員さんですとか商店街の方ですとか、あるいは今日、専門職の方も来てくださっているの、専門職の方なんかにもそういった地域の動きの仲間づくりを生活支援体制を進めていく上でのチームづくりをするときのメンバーを探すときの、お声がけの仕方というのかご相談の仕方、どういうふうにしたらいかなというの、現場のところで直接そういう会長さんたちにそういうぎっくばらんなお願いをしていいものなんだろうか、失礼にならないだろうかとかも含めて、せつかくこの1層の場で皆さん来ていただいているので、こういう場でちょっとご相談してみようか、ご助言いただこうかというような形で、今日のご報告しながらご相談という形でこの場を持たせていただいたという形になりますので、そういうことだったらこういうふうにしたらいんじゃないというようなご意見、ご助言あれば、ぜひいただきたいということで、今日よろしくお願ひしたいと思っております。

【会長】

はい。ありがとうございます。新しい形でのこの協議体をどういうメンバーでやっていくのか、またそういう人材をどういう具合に見つけていくのかといったようなところのご相談といえますか、お知恵をとということだと思んですが、委員の皆様、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

【委員】

ありがとうございます。僕がこのおたがいさまの話を聞いていて、いつも想定しているのは高齢者の方なんです。けど、実際は今問題になっているのは、小学生以下の小さい子たちの観点が、これ、この委員会で、この会議で出していいかどうか分かりませんが、ちょっとその視点が子ども食堂の問題とか、それから学童保育の問題とか、学校関係の方が、学校とか幼稚園とかそちらのほうですね。小さい子たちを面倒見ている人たちの意見も入れたほうがいいような気がするんで、余計なまた仕事を増やして申し訳ないんですけども、そういう方も協議会のほうにご参加というか、スーパーバイザーとかでもいいんですけども、意見があったほうが将来的なことですね、今はいいんですよ。恐らく将来、10年、20年たってくるとそこら辺が問題になってくると思うんで、いかがでしょうかね。どうでしょうか。

【会長】

非常に重要なご指摘だと思います。やっぱりコミュニティの持続可能性ということ考えたときに、多世代というアプローチというのは非常に重要だと思うんですね。

厚労省のほうも今地域で様々な通いの場、サロンをつくりましようと言っている中で、もともとは体操して茶話会して解散というのが一番ベーシックだったんですが、もうそれだけでは地域の高齢者の方のニーズ自体も拾えないだろうと。また地域の実情を見ると、高齢者だけでは駄目だろうということで、例えば子ども食堂を応援する高齢者もその高齢者にとっては、これ、大事な介護予防になっていて、地域貢献だということで、本当に多世代というのが今回の広い意味での通いの場ということでも大きく明示されているところなんですね。

ですので、本当に、私があんまり意見、持論ばかり言うとあれなんですけど、そういったところで、多分こういった会議でどこまでその枠を広げるかといったときに、おたがいさま創生会議というのは、本当に一番コアの部分だと思うんですが、子どもとか教育のほうをそこも非常に絶対必要なんですが、やっぱりどこがリーダーシップ取るかという、多分地域づくりを一番推進しているのは、この高齢者の領域だと思うんですね。それで高齢者からやっぱり発信する、高齢者からの領域からアクションを起こして、そこにどんどん若い世代も入ってきてもらうというようなほうが一番自然なんじゃないかと。

その一番理想像というのが、今日の地域包括会議でも出ていましたけども、重層的支援体制といいまして、全世代、全領域がハイリスクの人もあるいは地域づくりのいろんな場も高齢者だけとか子どもだけじゃなくて、みんなが集まってみんなが相談して、みんなが楽しめる場をつくっていこうというのがゴールですので。やっぱり協議体を設ける目的ですとか、メンバー構成からしても、もう一回、本来はこの創生会議が重層的な支援体制の地域共生型の会議の一番の先駆けになるのが一番出席もしやすいんじゃないかなと思いますので、これは今日をきっかけにぜひまた議論をしていただいて、この会議の持ち方あるいは地域共生に向けてどうしていくかということの第一歩にもなるんじゃないかなということで、非常にもう先生、ご高覧といいますか、いいご意見をいただけたと思います。ありがとうございます。

せっかくの機会ですので、今、具体的に……

はい。じゃあ、委員、お願いいたします。

【委員】

すみません。豊島地域ということなので、ぱっと思いついたのが、カップ祭りだったりとか、あと五丁目団地のお祭りだったりとか、多分年1回のお祭りにすごいエネルギーを注いで、多分高齢者の方々、自治会の方々とか、協力されていると思うんですが、多分年1回のイベントだと、すごい盛り上がるんですけども、その分休憩時間というんですかね、活動しない期間もかなり長くなっていて、そうすると一点集中はもちろんいいんですが、もうちょっと散発的に活動できたほうが、高齢者の方としては、年間を通して交流が途切れないみたいなものが、漠然としてお話しして申し訳ないですが、できるといいのかなというのが1点と。もう一つ、僕の知り合いがやっていた豊島中央通りのところを封鎖して「みちあそび」というのを1回か2回やったかなと思うんですが。みちあそびなので、基本多分子どもなんですけど、そこは商店街なので、商店街のお店が一步前に出ているいろんなものをちょっと露店やっているふうにして、お店出してくれたりしていたんですね。そこで多分子ども関係の人たちが主軸になって動いていたと思うんですが、ここをもうちょっと自治会の方々とか高齢者の方々が協力いただいて、いろんなことに参画していただくと多分もっともっと充実してくるんじゃないかなというのを少し感じたので、今、お話しさせてもらいました。ありがとうございます。

【会長】

ありがとうございます。ほかには、委員、いかがでしょうか、委員の皆様。どうでしょうか。

多分、本当にこの東京の利点といいますか、私なんかもいろんな委員会とか勉強会なんか出させていただいて、北区だけではないですけども、東京のメリットというのがやっぱり先ほど北区社会福祉協議会がおっしゃったような面白い人がたくさんいるということなんですよね。そういう意味で、本当に何ていいますか、若い人もですし、サラリーマン世代も働き方自体も変わってきて、かなりこのコロナでコミュニティ意識というのが高ぶっている方も多いかと思うんですね。

多分そういう人たちというのは、ネットでもいろいろやるとすぐ飛びついてきてくれたりするというのもあると思いますので、口コミと同時にいろんな今の若い世代、中年世代もゲットするという意味では、SNSなんかも使ってこういうホームページなんかでこういうマルシェやっていますというようなことをやると、それでサポーター募集というようなことでやると、何かその志ある人が集まってくるというようなことも想定できますので。本当に、やっぱりもうちょっと若い世代をどう取り込むかということが

大きな課題かなというようにお見受けしました。

そういう意味で、いいですね、今、委員のおっしゃったようなネットワークですとか、ほかにも多分、また委員のお友達を通じて、そういった方もいらっしゃるかもしれないので、ぜひちょっと社協さんのプロジェクトをいろいろ応援するブレインになっていただけるとありがたいかなと思いますが、いかがでしょうかね。

ほか、いかがでしょうか、何か追加で。

はい、どうぞ。

【北区社会福祉協議会】

専門職の方たちなんかはどうでしょうかねとっていて、そういう方たちにも、お仕事で忙しい方たちというのはよく分かってはいるんですけども、何かこう、そこから見えるものとかですね。その機関とか専門職の立場ではできないけど地域だったらできるのになみたいなものなんかが、こういうチームの中に入れてくださるとすごくありがたいなとと思っているんですけど。誰にどういうふうにお声がけしたらいいかなんていうところも、だんだん小地域になってくるとちょっと難しくて、北区全体とかになってくると、じゃあ理学療法士さんだったら委員にご相談しようとかとなってくるんですけども。もうちょっと地元に下りてくるときに、どんな相談の仕方なり、リクルートの仕方があるかなんていうのは、何かご助言いただけるとありがたいなと思うんですが。

【会長】

どうぞ。

【委員】

ありがとうございます。

リハビリのほうでありましたら、リハビリのネットワークのほうで周知させていただきまして、僕も赤北であったりだとか、桐ヶ丘とかいろんなところに顔を出させていただく中でいろんな方々をつながり、それこそ児童館の先生だとか、先ほどのボーイスカウトだとかいろんな方とつながることができるので、そうしたいという志しているリハビリのスタッフがいるかと思っていますので、ぜひ周知させていただければなと思います。

また、こういう本当、ネットワーク連絡会というのは、僕が思うんですけども、やっぱりいっぱいいろんな手を打っていかないと、つながろうと思ってもつながれないのかなと思っているので、1回2回じゃなくて継続的にずっといろんな形でいろんなことを

やることによって数打っていく中で、たまたまつながった人から何か広がっていくという機会があったりだとかするかもしれませんので、1回2回とか、どんな大きく小さく、こっちのエリア、あっちのエリアでいろんな方を巻き込んでいくような、もう本当、手当たり次第じゃないですけども、数は大切なのかなと思いますので。その中でたまたま来てくださった方から何か広がっていく可能性があるかと思いますので、どんどんやっていただくといいのかなと僕自身も思いました。

リハビリのほうは、僕から発信していきたいと思いますので、よろしくお願ひします。以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。だんだんいいお時間になってきましたが、ほか、委員の皆様、何か一言ずつでも。

委員、何かご感想でも結構ですけれども、全体を通して。

【委員】

民生委員のところには、児童委員というのがついておりまして、民生・児童委員ということで、要するにご老人というか、高齢者からお子さんを産んだばかりのお母さんから幼児から小学生から、みんなこう、全体を見なければいけないことになっているんです。ですが、やはりどうしても高齢者に目が向き過ぎるといいますか、最近いろんなことで子どもさんのことでヤングケアラーとかいろんなことが出てきて、子どものほうにも目を向けなきゃ向けなきゃというふうに始まったばかりじゃないかと思います。

それで、今、うちのほうの町会でも青少年地区委員会というのは、地区委員会としてのいろんなことをやっています、サマーフェスティバルとか。それで、シニアクラブ、そちらももう私もシニアですので入っておりますが、そうすると輪投げ大会とか、例えばグランドゴルフ大会とか、いろんな催しやっております。

ところが、それとこれとあれとをつなげて全体に、例えば昔の運動会のように大人も年寄りもいろんな人が参加してできるようなものというのがなかなかつながっていけないのかなと思います。どこでそういうものをつなげてやっていけるのか、そういう誰がやったらいいのかというのが、ちょっと見えてこないといえますか。

この8月に盆踊りをやろうかという話が出ているんですが、結局商店街のほうでいろんなことができない。また町会・自治会のほうで、例えば焼きそばだとかいろんなもの、かき氷を売ったりというイベントも、コロナのこともありますが、手が足りない。じ

ゃあ、商店街の方をお願いしたいとなっても、その商店街のほうもない、なかなかやっ
ていただけない。それで、どういうふうにしたら、何ができるのかということにだんだ
んなって、縮小するようなことになってきているので、もう何とかみんなでいろんな機
関の方たちと話し合いができる場というのを設けていただけたらいいのかなと思います。

【会長】

ありがとうございます。じゃあ、またご意見いただいておりますね。

委員、何か今日の全体通して、一言いかがでしょうか。

【委員】

シルバー人材センターでございます。

どうも先ほどまでのあれでは、シルバー人材センターがこの会に参加するのが、今回
からなのかなというところもありますので、ちょっと紹介と宣伝をさせていただきたい
と思いますが。

シルバー人材センターでは、登録をいただいた北区在住の60歳以上の方に、企業や
役所など家庭も含めて、そういったところからお仕事をいただいて、それを会員さ
んにご紹介するという組織でございます。

そういった紹介する内容の中には、買物の代行とか、それから販売員としてやるとい
うようなことなども含まれていますので、例えば先ほどの商店街さんの出張商店街みた
いな話において、本当に申し訳ないんですが、時給をいただければ販売員を提供するこ
とができるんだけどなというようなところがございます。

なので、お店の店主の方が1日それで潰されるよりは、1時間1,000円から1,
200円ぐらいの単価を払って、そういう販売の方を雇ったほうが良いというようなお
考えがあればマッチングするのかなというようなことで考えてございます。

それから、もう一点、先ほど委員から出ました豊島中央通りのみちあそびの件ですけ
れども、その感想として一つ思ったのが、豊川通りにおいて、それこそ月に3回、1
のつく日に縁日が行われております。そういうところをさらに拡大する意味で、ちょう
ど学校の目の前でございますので、教育委員会とか、あと調整ができれば、その日、そ
の時間に合わせて校庭の一部を開放するとかいうことで、今、結構縁日も子どもたち、
歩道の段差のところ座って、屋台で買った物を食べたりとかいうようなことをしてい
ますので、そういう食べる場所の提供とか、遊ぶ場所として校庭のなどを併せて開放す
るというようなことで広げていければ、少しいいのかなというふうに思いました。

【会長】

ありがとうございます。そろそろよいお時間になります。

じゃあ、そろそろ簡単にまとめさせていただきたいと思います。

今日は本当に二つの事例、非常に勉強になりました。ちょっと私が経験している事例でございますと、今からもう数年前になりますが、社協さんと区のご支援の下で、志茂地区ですね、志茂ジェネプロジェクトといいまして、多世代でいわゆる様々な活動をしていきたいと思いますというようなプロジェクトを研究事業として進めさせていただいた経緯があるんですが、そのときもやはり高齢者の部局の関係者、あるいは高齢者の団体さんだけじゃなくて、子ども・子育てのほうの団体さんもいろんな方が入って、協議体といったものをつくって、その後、社協さんがずっとフォローしていただいているんですけども。

やっぱりその会議だけで、イベントチックなものだけをやっていると、なかなかいいアイデアが出てこなかったりとかしていたんですね。それがやっぱり社協さんのご尽力で、しもぞうハウスといいまして、たまたま空き家を利用させていただけるというような機会を設けまして。そうすると、何ていいますか、いろんなところからうわさを聞きつけて、ちょっとスペースを貸してくれないかとか、仲間に入れてくれないかといったような、それこそ面白い団体さんとか面白い方々が集まってこられたというような経験があるんですね。

ですので、やっぱり一つの大事なポイントというのは、できればこれからは空き家とか空きスペースといったような、割と常設的に活用できるようなところを何とか使っていくということが重要なんじゃないかと。

これは、2040年に向けて、全国で空き家がもう30%を占めると。多分北区でもそういった空き家というのは多いかと思うんですけど、そういったものの再利用というのは、これは治安とか防犯、防災だけの問題じゃなくて、やっぱりコミュニティに使えるということもあるかと思うんですね。

ただ、そういったところで、特にやっぱり、でも北区何かですと家賃の問題とか、あるいは運営費の問題というのも出てくるかと思うんですが、そこでやっぱり重要なのが、就労的活動といいますね。活動団体さんも全部どっかにおんぶにだっこじゃなくて、自分たちで何かものをつくって、それを販売するですとか、お部屋を空いている部屋を貸して、時間貸しするといったような、そういうお知恵を出してやっていらっしゃるとこ

るも増えてきております。

しもぞうハウスもそういうアイデアもちょっと出ていたことがありまして、何か割と若いスタッフの方々が制服の縫い物をして、それでちょっと運営費稼ごうかというようなアイデアも出ていたこともあったんですが、残念ながらちょっとコロナで中断したこともあるんですが。案外やっていると、いろんなアイデアが出てきて、やっぱりせめて運営費とか家賃の一部になるようなものを活動の中から捻出するということも考えられるんじゃないかと。

特にそういった事例、多々ございまして、我々も定期的ないろんな勉強会もしているんですが、今、インターネットを通じて、思いもかけないものが、ちょっとおしゃれに何か格好よくするとどんどん遠隔地のほうや北海道や沖縄の人がどんどん買ってきたみたいなのもあって、おばあちゃんの味とかそういったものもちょっと格好よくレシピにしたらうまくいくというようなこともあるんですね。

そういったところなんかでもやはり高齢者の方とか役所の方が全部自前でアイデアを出すというのは無理でございまして、やっぱり面白い人がいっぱいいますので、そういった方が媒介になって、中間支援するような立場で発信したりしていくと、随分活動に幅が広がったりとか持続するんじゃないかなと思いましたが、本当にそういう、何ていうか、芽がいっぱい北区はございまして、そういったものを活用する、今日、第一弾の勉強になったのではないかなと私自身感じておりました。

私の感想は以上でございまして。

一応、せっかくですので、これもう、おまとめの時期でございまして、時間でございまして、副会長からメッセージをいただければと思います。

【副会長】

様々なお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。

今、最後のところのネットワーク連絡会のところのお話を聞いていて、どういう人を、どうやって人を集めるかとか、どういう人を集めればいいのかというところでご助言いただきたいというような趣旨のこと、北区社会福祉協議会からありました。

そのとき思ったのは、これは委員のほうで答えは言っちゃっていましたが、自分は役所に帰れば部長となるんですけど、人を集めるんだったら、そういう長がついている人間というのは、何ていうんでしょうね、言葉を選びますから、やはりそういった実のある会議にするためには、実情を知っている人を集めるほうがいいんじゃないかなと、

そのように思っていました。

そういった意味では、こういう会議で北区社会福祉協議会がそういうのを投げかけたのは、いい作戦だったのかなというふうに思っていますし、ある意味おたがいさま地域創生会議というのは、そういうものを実現していく場なんだろう、そういう役割もあるんだろうというところで、この会議自体もより、何ていうんでしょうかね、成果が出るものになっていけばいいかなと思っています。なかなかネットワークについての議論というのは非常に面白く聞かせていただきました。ありがとうございます。

【会長】

ありがとうございました。

もうほとんど議題はございませんが、3圏域の地域包括ケア連絡会、先ほどからご紹介ありましたけれども、もしこれ、参加ご希望の方はお申出くださいということでございます。

私のほうからは以上でございますが、一旦事務局のほうへお戻ししてよろしいでしょうか。よろしいですか。はい。

じゃあ、今日は長時間お時間いただきましてありがとうございました。本当に何か新年度のきっかけになるようないい議論ができたのではないかなと思います。

それでは、おたがいさま地域創生会議、第1回を終了いたします。お疲れさまでございました。